

2016年度(平成28年度)

事業報告書

学校法人 新島学園

目 次

1. 学校法人の概要	2
(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4
2. 事業の概要	
(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	6
(3) 中学校・高等学校	8

1 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

- 新島襄の精神とキリスト教の精神

② 教育理念

- 中学校・高等学校「教育5原則」
 - 1) キリスト教精神を教育の基とする
 - 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
 - 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
 - 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
 - 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う
- 短期大学「教育モットー」
 - 1) 真理 — 自分の使命を探求すること
 - 2) 正義 — 信念に基づいた行動力を持つこと
 - 3) 平和 — 相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

- 1947年3月 財団法人新島学園中学校設立認可
- 1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行
- 1951年3月 学校法人新島学園に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更
- 1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする
- 1971年3月 新島学園高等学校高等学部・同中学部を新島学園高等学校、新島学園中学校に改める
- 1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学
- 1986年4月 新島学園法人本部設置
- 2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする
国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置
- 2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況 (2017年5月1日現在) (単位:人)

学校名		入学定員	収容定員数	現員	摘要
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	115	230	267	
	コミュニティ子ども学科	65	130	96	
新島学園高等学校		200	600	657	
新島学園中学校		200	600	603	

(5) 役員概要

(2017年5月1日現在)

定数 理事 12人以内、監事 2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	再任2017年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	就任2015年4月1日	短期大学学長
理事	岩間秀彬	常勤	再任2017年4月1日	中学校高等学校校長
理事	石井博明	常勤	再任2017年4月1日	学識経験者
理事	江守秀夫	非常勤	再任2017年4月1日	学識経験者
理事	児玉寛英	非常勤	再任2017年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	再任2017年4月1日	学識経験者
理事	静 朋人	非常勤	就任2017年4月1日	学識経験者
理事	八田祥孝	非常勤	再任2017年4月1日	評議員選出
理事	平松譲二	非常勤	就任2017年4月1日	学識経験者
理事	福田朋英	非常勤	就任2017年4月1日	学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	就任2017年4月1日	学識経験者
監事	磯貝光章	非常勤	就任2017年4月1日	
監事	島津文弘	非常勤	就任2016年9月30日	

(6) 評議員の概要

(2017年5月27日現在)

定数 25 人以内

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
小林 俊 哉	法人職員	小林 士 郎	学識経験者
須 川 裕	法人職員	風 岡 優	学識経験者
大 野 晋 吾	保 護 者	外 所 正 明	学識経験者
本 木 毅	保 護 者	南 都 隆 道	学識経験者
櫻 井 雅 寿	保 護 者	八 田 祥 孝	学識経験者
熊 木 義 隆	卒 業 生	藤 口 光 紀	学識経験者
田 中 美 香	卒 業 生	細 谷 可 祝	学識経験者
湯 川 嘉 昭	卒 業 生	松 本 政 之	学識経験者
丸 岡 え み	卒 業 生	林 信 道	学識経験者
立 見 賢 治	卒 業 生	高 橋 洋 一	学識経験者
天 田 清之助	学識経験者	半 田 充	学識経験者
大 橋 達 久	学識経験者	三 宅 豊	学識経験者
金 子 仁	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2017年5月1日現在) (単位：人)

区 分		短期大学	高等学校	中学校	本 部	合 計
教 員	本 務	19	35	27	0	81
	非常勤	58	13	21	0	92
職 員	本 務	13	5	4	4	26
	兼 務	4	2	1	0	7
合 計		94	55	53	4	206

2 事業の概要

(1) 法人本部

2017年度に創立70周年を迎えることに対応し、2016年度から2018年度の3カ年を記念イヤーと位置づける中で、2016年度をプレイヤーとし、第3次中期経営計画に定める事業と併せ、記念事業と位置づける取り組みも行った。

70周年記念事業

- ・2016年5月5日、地元新聞の裏面15段に「新島学園開学物語」を掲載し、記念事業の周知を図った。
- ・併せて、70周年記念ロゴマークを定め、本学園の教職員、役員等全員の名刺や封筒等の印刷物に掲示し、一体となって、周知に努めた。
- ・70周年のテーマとして、「種を蒔く」を位置づけ、新たな新島学園の創出に向け、10のプロジェクトを設定し、種々の取り組みを行った。

方針1 伝統を守る（原点の確認）

- ・健全な経営確保に向け、中高・短大において生徒／学生確保に向け、全学を挙げて取り組み、短大においては、定数を超えての入学に繋がり、中高においては、次年度への体制整備に繋がった。
- ・安全安心な教育環境確保に向け、中高においてはグラウンド等の整備を進め、短大においては、既存校舎の整備に向け、基本金組み入れの事業計画を策定した。
- ・新島ファミリーからコミュニティへと、新島学園の広がりを求め、同窓会の各支部となる地区根柢会と同窓会本部との情報交換と連携に努めた。
- ・70周年を一つの契機として捉え、情報発信の充実に向け、ホームページの更新を行った。
- ・地域連携として、安中市からの協力要請事業（あかちゃんプロジェクト・こども議会）への参加、或いは、高崎市からの連携提案等について検討を行った。
- ・心身ケア／労務管理の一環として、ストレスチェックや育児・介護制度に係る規程制定等の環境整備を行った。

方針2 伝統を生かす（新しい価値の創造）

- ・新島学園のイメージ確立に向け、教職員及び関係者が共有する、これまでの徽章やロゴマークに関する規程整備に取り組んだ。このため、教職員を含め、関係者にも意見照会を実施。
- ・新たな創造の節目となる70周年を積極的に捉え、創立70周年記念事業実行委員会を組織した。設定された10のプロジェクト事業の実施に向け、担当者

を選任する形で、位置づけた各事業の実施に取り組んだ。(式典・記念誌、他)

方針3 ガバナンスの充実

- 2015年度から着手した保有する規程類のデータベース構築が完成した。
- これに伴い、そのシステムを活用した実務処理の習熟が必要となるため、法制執務担当者を対象とした講習会を開催し、実務研修を実施した。

方針4 情報発信力の強化

- 法人本部に専任の広報センター長を配置し、中高・短大・法人本部間の情報共有に努めた。
- 地域情報紙「生活info」による情報発信を行い、情報発信媒体の多様化を進め、Facebook や Instagram など様々手法を用いて、情報提供を行った。
- 本学園のブランド向上に向け、同窓生の協力を得て、提供形態を体系化する中で、情報の発信を行った。
- 中高／短大／法人本部に連なる関係者の協力を得て、マンパワーによる周知にも取り組んだ。

(2) 短期大学

18歳人口の減少と短期大学進学率の低下という、短期大学を取り巻く厳しい環境の中において、地域社会に必要とされ、選ばれる短大となるために不可欠な活動を抽出し、その展開を図った。

具体的には、以下6つの活動を展開した。

○ 学生や市場を理解する

- 新入生に対してアンケートを実施し、本学を選ぶに至ったプロセスを把握し、その中から改善策を見出した。
- 在学生(2年生)に対してアンケートを実施し、学生生活の満足度と満足要因を把握し、改善策を抽出した。
- 高校側のニーズや状況を把握するため、高校訪問で先方の状況、本学のイメージを聞き取り、市場理解と自学理解を図った。
- 人材ニーズや本学への評価を把握するため、就職先企業に対してアンケートを送付し、2015年度就職先企業101社から回答を得た。

○ 短大としての魅力づくり

- 目的意識を持った入学者を確保するため、アドミッション・ポリシーを

明確にしたコース制(CD 学科 4 コース、CC 学科 3 コース)開設を企画し、そのカリキュラムやゼミの受け入れ体制を整備し、コースの特色を生かしたプログラムづくりや受験生や高校へのアピールなどの諸活動を実施した。

- 快適なキャンパスづくりのため、施設・設備や植栽等の改善を図る取り組みを開始することを年度目標として活動を行った。ファシリティ・マネジメント委員会を新設し要改善箇所をリストアップし、優先順位をつけて実施した。前期にはグレースホールのテーブル、椅子の入れ替え、後期には本館ホワイエのテーブル、椅子の入れ替えを行った。花壇についても、花を植えるなど整備した。
- 雰囲気の良いキャンパスづくりの年度目標として、上品なキャンパスをつくることを掲げ、学生のマナー向上を図り、挨拶についても、学生に強いるのではなく、教職員から率先して行う事、教職員も上品さを心がけることなど、平素の意識の重要性を伝えた。
- クラブサークル活動の活性化、キャンパスライフの多様性を確保するため、クラブ等の新設を促進した結果、吹奏楽部とヨガサークルが新設された。吹奏楽部については、児童養護施設のクリスマス会での奉仕依頼があり、聖歌隊とともに、演奏を披露し喜ばれた。
- 編入に関しての提携大学を増やすため、首都圏の私立大学で、学生の希望する大学との提携交渉を行い、駒澤大学法学部、経済学部など 4 学部に依頼を行った。

○ 活動内容等の積極的発信による知名度向上

- マスコミに対してニュースリリースを積極的に行い、公開講座や各種行事等について、年間 34 件掲載された。コメンテーターズガイドブックを制作し、教員の専門分野や業績を冊子にまとめたものをマスコミ各社に配布し、取材の際の資料としてもらえるようにした。これに基づく取材 1 件を得た。
- 高等学校に対しての情報発信のため、コメンテーターズガイドブックを制作し、出張講義の選定資料としてもらえるよう高校訪問の際に持参し、出前講義に対応する旨の説明を行った。二つの高校からこれに基づく依頼があった。
- 高校訪問用の分かりやすい説明資料を作成し、パンフレットの説明をやめ、A4 1 枚の裏表を使った説明資料を用意し、それで説明するように変更を行った。
- ホームページ等の活用により、伝えたい情報を迅速かつ詳細に発信する

ことを目標として、更新体制等の整備を行った。また、軽微なニュースについては、6月にFacebookを開設し、そこで発信するようになった。

- 教職員の能力開発と、それに基づく効率的・効果的な業務運営
 - ・ 教員の授業スキル向上のため、能動的学習のリーダー養成講座に1名の教員が参加し、そこで学んだ内容をFD委員会が企画した研修で実践した。
 - ・ 事務の合理化と事務職員の能力開発を図るため、現状の事務処理の確認と改善策を実施することを年度目標として、ネットバンキングの拡大や回覧書類確認の徹底、届出書の簡略化などの合理化を実施した。また、SD委員会を新設し、SWOT分析や現状の課題と改善策に関する話し合いを実施した。そのほか、補助金獲得を目指し、運営委員会で評価向上につながる取り組みを増やすなどして対応し、評価点は向上した。
 - ・ 委員会の効果的活動を図るため、各委員会の目標を設定し、その達成状況と要因を把握し、改善へとつなげていくことを年度目標とした。設定された目標に対して、実施したアンケート等の評価を基に、達成状況を確認し、改善につなげるサイクルを意識するようになった。

- 地域社会との連携、地域貢献
 - ・ 地域連携委員会を編成し、チャイルド広場実施体制の充実と今後の活動について検討した。
 - ・ 特別礼拝やクリスマスのイベントを学外にも積極的に告知し、参加者増を図った。特にクリスマスは学生の座る場所がないほど多くの来場者があり、次年度は開催場所の変更も検討することになった。
 - ・ 2015年度に引き続き「高崎市民クリスマス」を、本学グレースホールにおいて開催した。
 - ・ 地域連携委員会が主導で短大周辺の清掃活動を実施したほか、大学祭で、父母の会、後援会共催のバザーを初めて実施した。

- 風土づくり
 - ・ 前期と後期に各1回、教職員合同の研修会を開催し、意見交換を行った。
 - ・ 学生のキリスト教理解、共感を促進するほか、教職員のキリスト教理解、共感を促進することを目指して、職員が礼拝に参加できる環境づくりを模索した。手始めとして、クリスマス礼拝での全員参加を図った。また、教授会後に建学の精神を学ぶ勉強会を開催した。

(3) 中学校・高等学校

グローバル人材の養成に係るプログラムの拡充。ラーニングコモンズの新設と電子黒板の導入やICT教材によって新たな授業スタイルの実践と生徒が自ら学ぶ習慣を身につける学習環境整備の施策展開

以下、6つの方針に沿って展開された施策内容と成果。

- キリスト教精神に基づき、他を思いやり、グローバルな視点を持ったたくましい人間の形成。
 - ・ 建学の精神を再確認することを目的として、中学校1年生では新島襄について学んだ。新島襄の学習において、中学2年生は「新島襄検定」による確認・定着を図り、中学3年生は「新島襄と建学の精神」について読書を通して理解を深めた。高校1年生では「群馬のキリスト者」新島襄、湯浅治郎、柏木義円について学んだ。
 - ・ 10月7日(金)、8日(土)元同志社大学神学部教授による講演会を実施し、「新島襄の教育のこころ」を学んだ。
 - ・ 7月18日(月)から7月22日(金)計73名の参加により「エンパワーメントプログラム」を実施。中学1年生、2年生の希望者には「プリエンパワーメントプログラム」を行い、合わせて52名の参加があった。
 - ・ 8月18日(木)中学進路講座として、中学部OB講座を実施した。
 - ・ 9月10日(土)現役大学生3名(卒業生)による「大学のイメージを具体化する」プレゼンテーション企画、「白熱教室」を開催した。
 - ・ 第4回雷神カップ英語ディベートコンテストに2チームが出場し優秀な成績をおさめた。
 - ・ 碓氷安中地区明石杯英語スピーチコンテストで、高校3年生2名が県大会へ出場。
 - ・ 安中市中学校の英語スピーチコンテストで、中学1年生・中学2年生・中学3年生のスピーチ、暗唱の部、中学3年海外帰国者各部門ですべて1位を獲得。中学3年海外帰国者部門では、県大会優勝。
 - ・ 体験学習を中心とした本校独自の取り組みであるJOEプログラムにおいて、安中史跡巡り、農業体験、進路学習、英検・漢検・多読チャレンジなどに取り組んだ。
 - ・ 生徒会、インターアクトクラブを中心に群馬県や安中市の企画活動に積極的に参加した。

- グローバル化を生き抜く人間力育成と学力の向上

- 県内で初めての試みとして、カルフォルニア大学バークレー校の学生数名と本校生徒とグループを作りオールイングリッシュでディスカッションを行う、エンパワーメントプログラムの実施を継続。課外授業「国際教室」においてもオールイングリッシュの授業を展開した。また、中学生向けにイングリッシュキャンプも実施した。
 - 10月26日(水)から10月28日(金)、立命館アジア太平洋大学(APU)研修に33名が参加した。
 - 中学総合学力調査を9月5日(月)に実施した。
 - 高校3年生一般受験生徒を対象とした個別学習指導を10月24日の週から開始し、15名の生徒の参加があった。
 - プログラミング学習において、中学1年生を対象に行うデジタル工芸教室(技術科)や上級生を対象とする「未来工作キャラバン」をアソビズム社の支援により実施した。
 - ラーニングコモンズの電子黒板の活用を開始した。自習室、ICT教材の活用も合わせ、自学自習やグループ学習などの学習環境を強化した。
 - e-Learningシステム「すらら」も活用して、英検受験指導を強化し、中学生の英検1級2名、準1級2名、2級5名、準2級47名、3級176名がそれぞれ合格した。
 - 国立研究開発法人科学技術振興機構が行う「中高生の科学研究推進活動実践プログラム」の2年目を実施中。中学1年生から高校2年生までの生徒10人が7つのテーマで研究活動を行った。
 - 高校1年生・2年生全員を対象に「夢ナビライブ」(大学説明会、模擬授業)に参加。
 - 原町赤十字病院への一日看護体験に7名が参加した。
- 教職員の7つの能力の育成と『やりがい』の発見により力量の発揮。各種研修への参加と自己研鑽による「教師力」の向上
- 教職員全員によるアクティブラーニング授業の研修を実施。
 - 教職員の未来を考える会を設置した。
 - 群馬県教育センター研修、私学協会関係研修、キリスト教学校教育同盟研修、自発的研修など多数参加した。
 - 若手教師を中心に教育相談初級の資格習得者が増え、きめ細やかな相談環境が整った。

- 早稲田大学教授による特別支援の講演とワークショップを実施した。
- 生徒の安定的確保(広報活動の戦略的な拡大と効果的な方策の確立)
 - 潤沢な指定校推薦枠と一般受験の成果を示し、積極的に広報活動を行った。学校説明会では、各地区 PTA からの協力も得、大きな効果があった。
 - 新たに生徒募集室を設置するとともに広報戦略会議を立ち上げた。担当者の人員増を図り、外部コンサルティングの導入も行い新しい生徒募集方法・市場の開拓に取り組んだ。
 - ポスターやパンフレット作成に工夫を凝らし、中学版、高校版を別刷りで作成するとともに各地区での学校説明会、学園でのオープンスクールを行った。
 - 高校募集では積極的に中学校と学習塾への訪問活動を行い、2015 年度を上回る受験者数となった。
 - 各部活動の活躍や 70 周年記念事業について、記事や映像などをホームページや Facebook を活用し、頻繁に情報発信を行った。
- 関係者、関係機関との信頼関係を高め、助言、協力、支援を学園の発展に繋げる。
 - PTA の協力を得て、新たに学園を会場として安中地区学校説明会を開催。50 組 150 名の参加を得た。
- 安心・安全な環境整備と懇切丁寧な生徒指導
 - 教職員対象のストレスチェックを実施した。
 - いじめ調査を実施し、いじめ防止対策委員会で審議を行い、調査結果と問題がなかった旨、監督官庁へ報告を行った。